



# 若者へのメッセージ 24

臨済宗円覚寺派管長

横田 南嶺

## 【第三回】精一杯生きよう

中学生の頃、当時の仏教界を代表する松原泰道先生に「精一杯生きよう」という大切なことを教えていただきました。それからというもの、どんな場所でも、どんな勤めでも、誰も見ていなくても、精一杯自分の力を出して生きるのだと言い聞かせてまいりました。

「精一杯、何事も精一杯」

私がまだ中学生の頃、当時の仏教界を代表する方であった松原泰道先生にお目にかかりました。松原先生は、『般若心経 入門』をはじめたくさんの仏教書を刊行された高名な禅僧でいらっしました。

私は、中学生の時に、松原先生がNHKラジオで、毎月一回一年に亘って法句経を講義なされたのを聞いていました。私はその講義を聞いて感動し、先生に手紙を書いてお目にかかることができたのです。

そのときに私は、色紙を持参して、仏教には

膨大な経典が残されていますが、その中に説かれて

いることで最も大切な教えをお書きくださいとお願

いしました。今にして思えば随分と不躑躅なお願いをした

ものだと反省させられますが、先生は嫌な顔ひとつな

その言葉とは

花が咲いている

精一杯咲いている

わたしたちも

精一杯生きよう

という分かりやすい詩でありました。

その時に先生は、私に語ってくださいました。

「花はなぜ咲いているのか、考えてみなさい。

ただ単にそこに咲いているだけだと見るのでは

いけません。花が咲いている姿から何かを学ぶ

事が大切なのです。花は、与えられた場所で精

一杯咲いているのです。その精一杯咲いている

姿から、私たちの生き方を学ぶことです」と。

それからというもの、私にとりましては「精

一杯生きる」ということが大きな課題となりま

した。どんな場所でも、どんな勤めでも精一杯

自分の力を出して生きるのだと言い聞かせてま

いりました。

大学を卒業して、すぐに私は京都の修行道場

に入りました。京都に旅立つ前に、松原先生に

ご挨拶に参上すると、先生は小さな紙片に和歌

を書いてくださいました。

あれを見よ みやまの桜咲きにけり

まごころ尽くせ 人知らずとも

という歌でした。

この歌は、かつて先生が学生時代の最後に徒

歩の旅をなされて、箱根の山中に咲いていた見

事な山桜をご覧になっていた歌だったらしいです。

た石碑に刻まれていた歌だったらしいのです。

こんな誰も人の通らないようなところでも、

山桜は与えられた場所で精一杯咲いているのだ

色紙  
プレゼント  
のお知らせ

■横田南嶺先生ご揮毫の色紙を1名様にプレゼントいたします。はがきに、「横田南嶺先生の色紙希望」と明記のうえ、「若者へのメッセージ」に対するご意見・ご感想を添えて、編集部宛にお申込みください。締め切りは3月30日（金）です。ふるってご応募ください。なお、色紙の発送をもって発表にかえさせていただきます。

「花が咲いている 精一杯さいている わたしたちも 精一杯生きよう」



花が咲いている  
精一杯さいている  
わたしたちも  
精一杯生きよう

円覚

南嶺



これは修行の心構えでもあります。誰が見ていなくても、自分のまごころを尽くして勤めることが大切であります。

その折りに先生は、これから修行に出かける私に小さな手数珠をくださいました。これを持って行って頑張って修行するのですよと声をかけてくださいました。

大切にその数珠をもって修行にかけ、それから十数年に亘る修行が始まりました。ようやく修行を終えて、円覚寺の僧堂師家に就任するにあたって、先生にご挨拶に参上しました。そして私は修行に出る時に頂戴した手数珠を先生に示して、ずっとこの数珠を大事にしてまいりましたと報告しました。すると先生は即座に「その数珠の紐は切れたでしょう」と言われました。たしかに長年使っていると数珠をつなぐ紐は切れます。私は「はい、切れました。でもそのあとすぐに直して使っています」と答えました。先生はニツコリと微笑まれました。

どんなに「精一杯生きよう、誰も見ていなくても勤めよう」と思っても、その思いの糸が切れることもあります。それでもすぐに思い直してもう一度頑張るのです。「精一杯、何事も精一杯」と言い聞かせて今日まで参りました。お若い皆さまにも、あきらめずに精一杯勤めて欲しいと願います。